



「家守」、まちに根付き、共に歩む建築家

今までの、まちの人々にとってすぐに顔がみえない権威のある建築家像はここには存在しない。

「家守」はまちに入り、まちに根付く。

そしてまちの人達と同じ立場で話し、悩み、考えながら共にまちを考えながら歩いていく。

そんなまちにいる人達にとって顔が見え、身近にいる、人々に寄り添い続ける建築家像がこのまちには存在する。